

【鬼頭寛之先生】

[クオリティと効率を考慮したセラミック修復]

昨今、CAD/CAMの普及により、補綴設計またはマテリアルセレクションも大幅に変化している。ジルコニアもさまざまな透光性の違いの種類が登場し、レイヤリング法からステイン法が主流となったと感じる。しかし前歯部審美領域には両手法ともメリット・デメリットが存在する。レイヤリング法においては匠の技を必要とし製作において難易度は高いが審美性も高い。反面、ステイン法においてはレイヤリング法に比べると製作する難易度は低くはなるが症例を選ぶ必要がある。

今回、私が実習を行うマイクロレイヤリング専用陶材は、両手法のメリットを掛け合わせたシステムであり、新しい手法である。材料の特徴、フレームワーク、ステイン材など様々なポイントを紹介する